

卒業生アンケート集計

2021年5月4日発送 152名(対象は2020年3月卒業生)

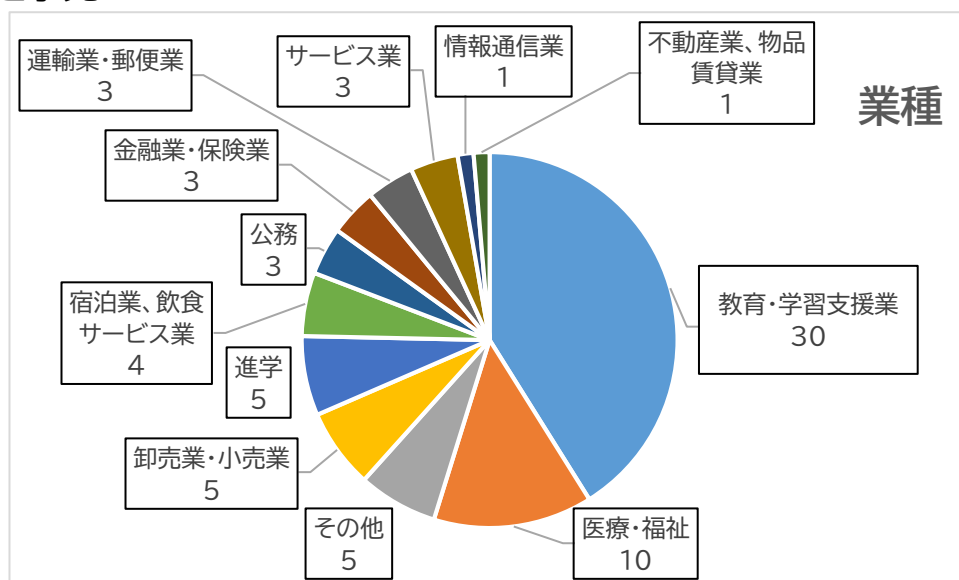
2021年6月18日締切

(人数)

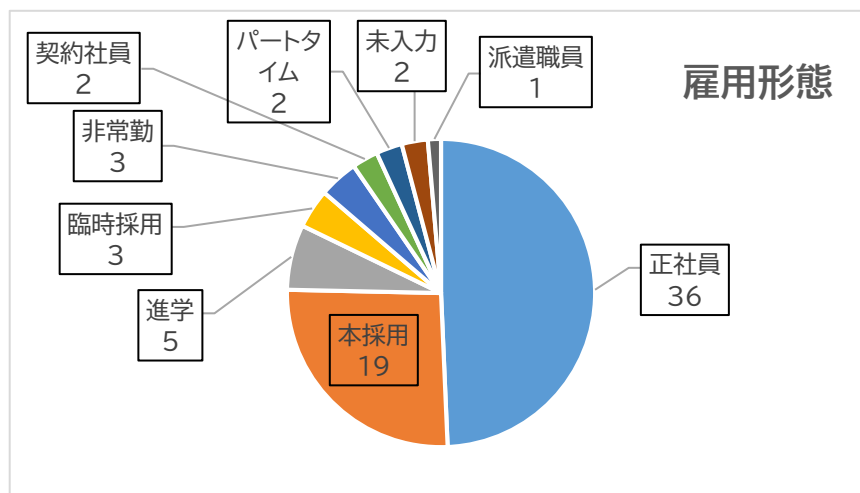
	発送数	宛先不明	回答数	男性	女性	回答率
CE 専攻	36	2	18	5	13	52.9%
保育コース	29	0	14	0	14	48.3%
児童教育コース	15	0	11	1	10	73.3%
心理臨床学科	72	4	29	9	20	42.6%
所属不明			1	0	1	
計	152	6	73	15	58	50.0%

有効配達 146 先に対し回答件数 73 件 回答率 50.0%(参考:2020年度 23.1%、2019年度 21.5%)

Q2-① 勤務先、進学先



Q2-② 雇用形態



Q2-③ 退職、転職等

- ①58名:退職していない(86.6%)
 - ②3名:転職した (4.5%)
 - ③1名:退職後何もしていない(1.5%)
- 合計 67名(うち5名は現在も大学院、専門学校)

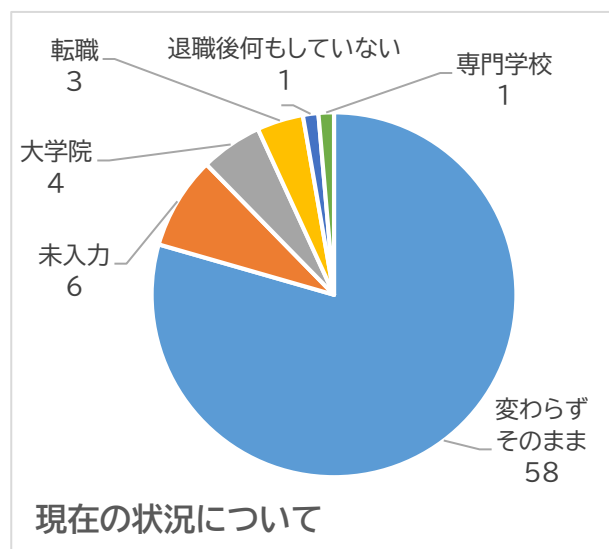
*未回答の卒業生 6名
 保育コース 1名、児童教育コース 1名
 心理臨床学科 3名、無記名 1名
 *転職した卒業生 3名
 キャリア・イングリッシュ専攻 1名
 児童教育コース 2名

*転職した理由

一身上の都合、仕事内容、職場の雰囲気、休暇を含む福利厚生

*転職後の業種

教育・学習支援業、金融業・保険業、卸売業・小売業

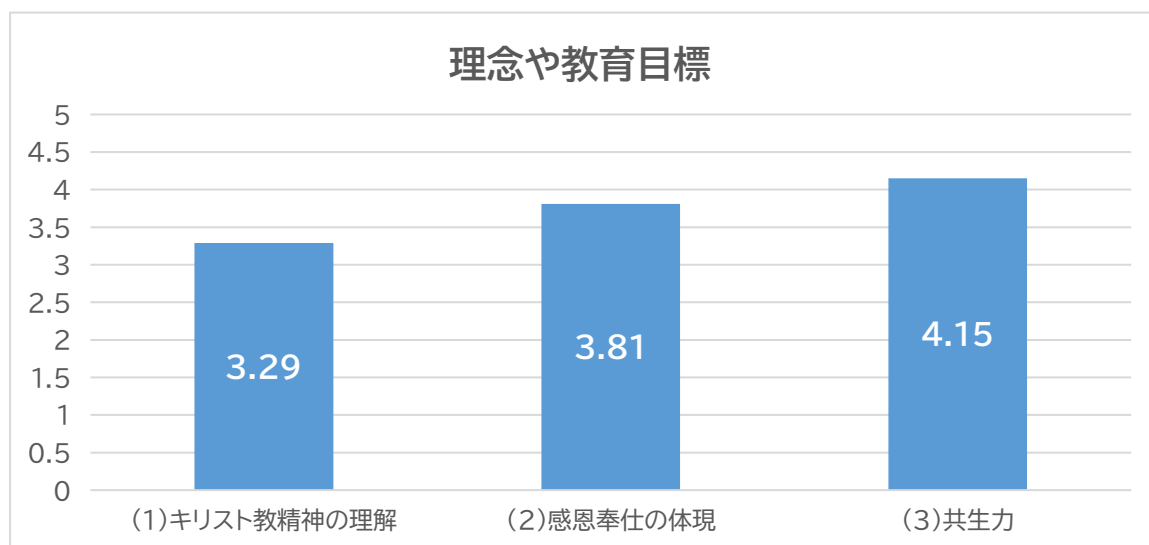


Q3-① 在籍時の学習成果がどのくらい身について活かされているか

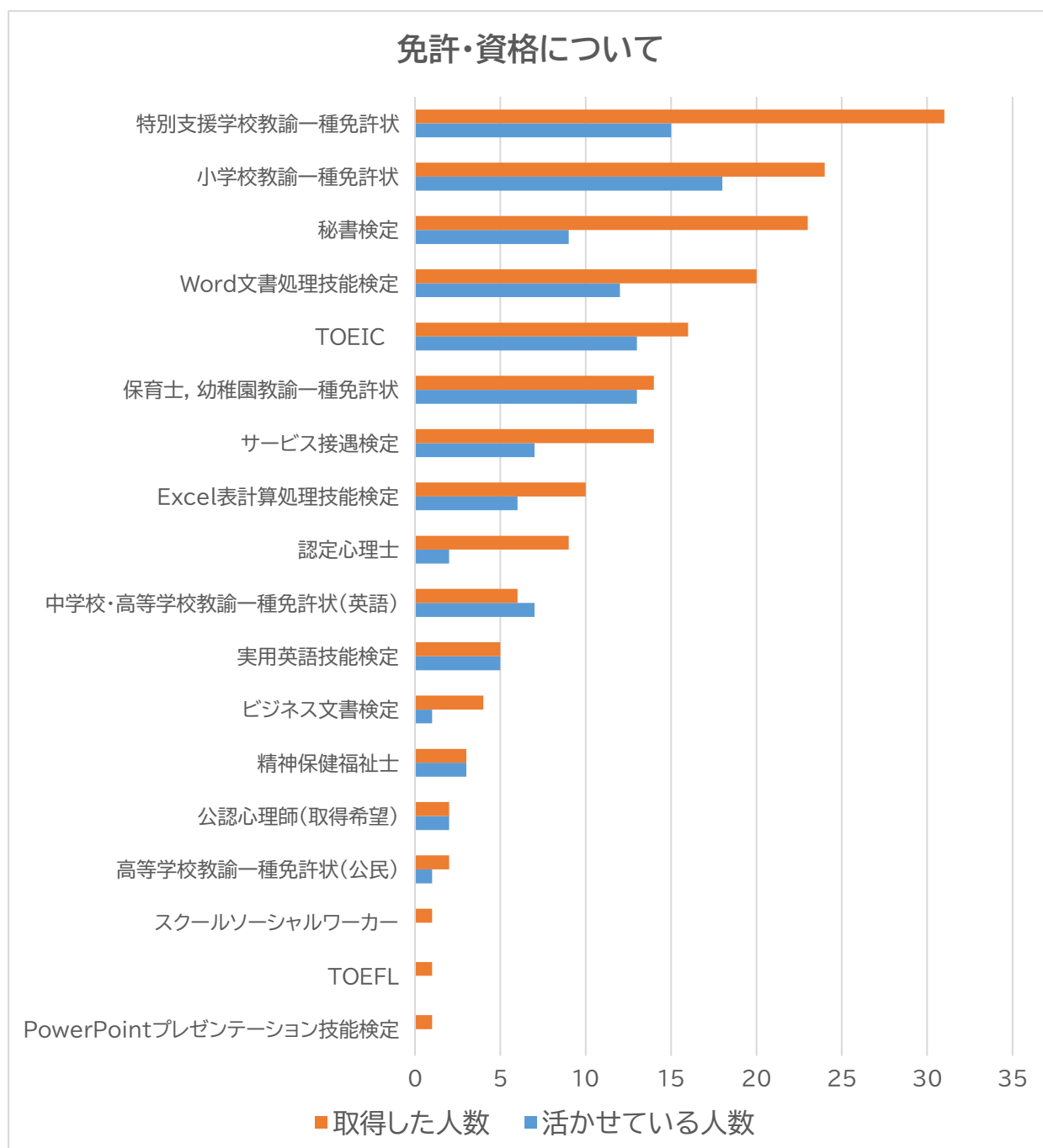
- 5 身に付いている 4 概ね身に付いている 3 少しは身に付いている
- 2 あまり身に付いていない 1 身に付いていない

①本学の理念や教育目標について

項目	内容
(1) キリスト教精神の理解	キリスト教精神やそれに基づく感恩奉仕の精神を理解している
(2) 感恩奉仕の体現	ボランティア精神と倫理観を持ち、社会で自分の役割を果たしている
(3) 共生力	社会の動向に関心を持ち、また異なる文化や他者を理解し、その社会・文化の中で他者とともに協同することができる



Q3-②③ 取得した免許・資格について、どれが活かされているか

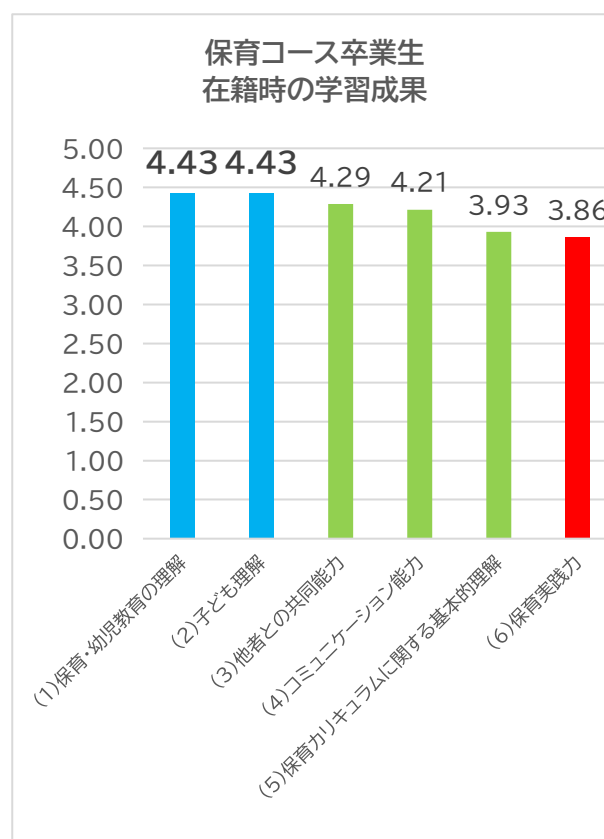
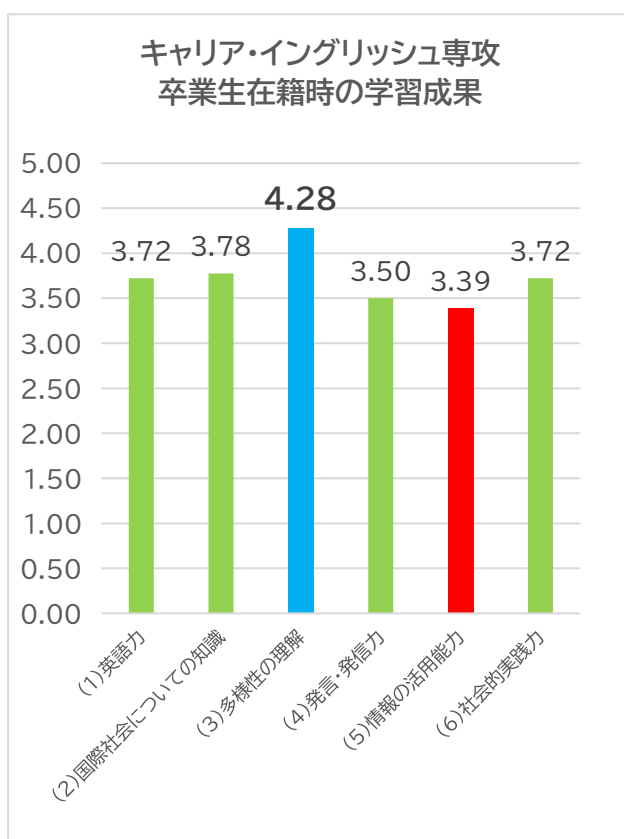


Q3-④ 社会人になって在学中に取得しておけばよかったもの

英語検定、TOEFL、TOEIC、韓国語の検定、簿記、秘書検定、幼稚園免許、FP、医療事務、社会福祉士、心理学検定、PSW、スクールソーシャルワーカー、色彩検定、パソコンスキル、情報関係、PowerPoint プレゼンテーション技能検定、PC 関係の資格、Word 検定、Excel 表計算処理技能検定、ベビースキンケアやおもちゃインストラクターなどの赤ちゃん関係の資格

キャリア・イングリッシュ専攻卒業生への質問(回答 18 名)

(1)	英語力	伝達媒体として英語の技能(読む、書く、聞く、話す)が向上している 英語の専門知識が身に付いている
(2)	国際社会についての知識	国際人となるための知識、世界情勢、グローバル・ビジネスに関する 知識が身に付いている
(3)	多様性の理解	日本を含む国際社会の多様なあり方・考え方を柔軟に捉えることができる
(4)	発言・発信力	修得した知識、自分の意見を言語化・具現化して表現できる
(5)	情報の活用能力	ITスキルを修得し、その知識・技術によって情報分析や情報発信に活用できる
(6)	社会的実践力	修得した知識・技能を実習や体験の場で活かすことができる

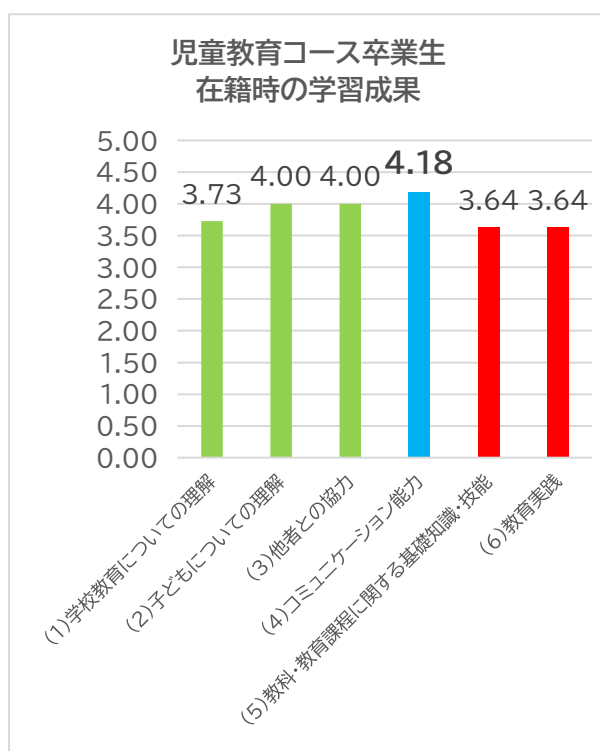


保育コース卒業生への質問(回答 14 名)

(1)	保育・幼児教育の理解	保育・幼児教育の意義、原理、理念、倫理観、法規、社会的役割に関する理解
(2)	子ども理解	保育心理学、発達心理学、保育・福祉、子育て支援に関する理解
(3)	他者との共同能力	グループワークの基本理解、保育現場における集団の理解、地域との連携に関する 基礎能力
(4)	コミュニケーション能力	保育現場における受容的態度、専門職としての対話能力、保育指導能力
(5)	保育カリキュラムに関する 基本的理解	保育カリキュラム、保育方法、情報機器の活用、保育指針・教育要領の基本的理解
(6)	保育実践力	PDCAサイクルを活かした保育計画立案と実践、クラス経営、子育て支援・家族支援の 実践力

児童教育コース卒業生への質問(回答 11 名)

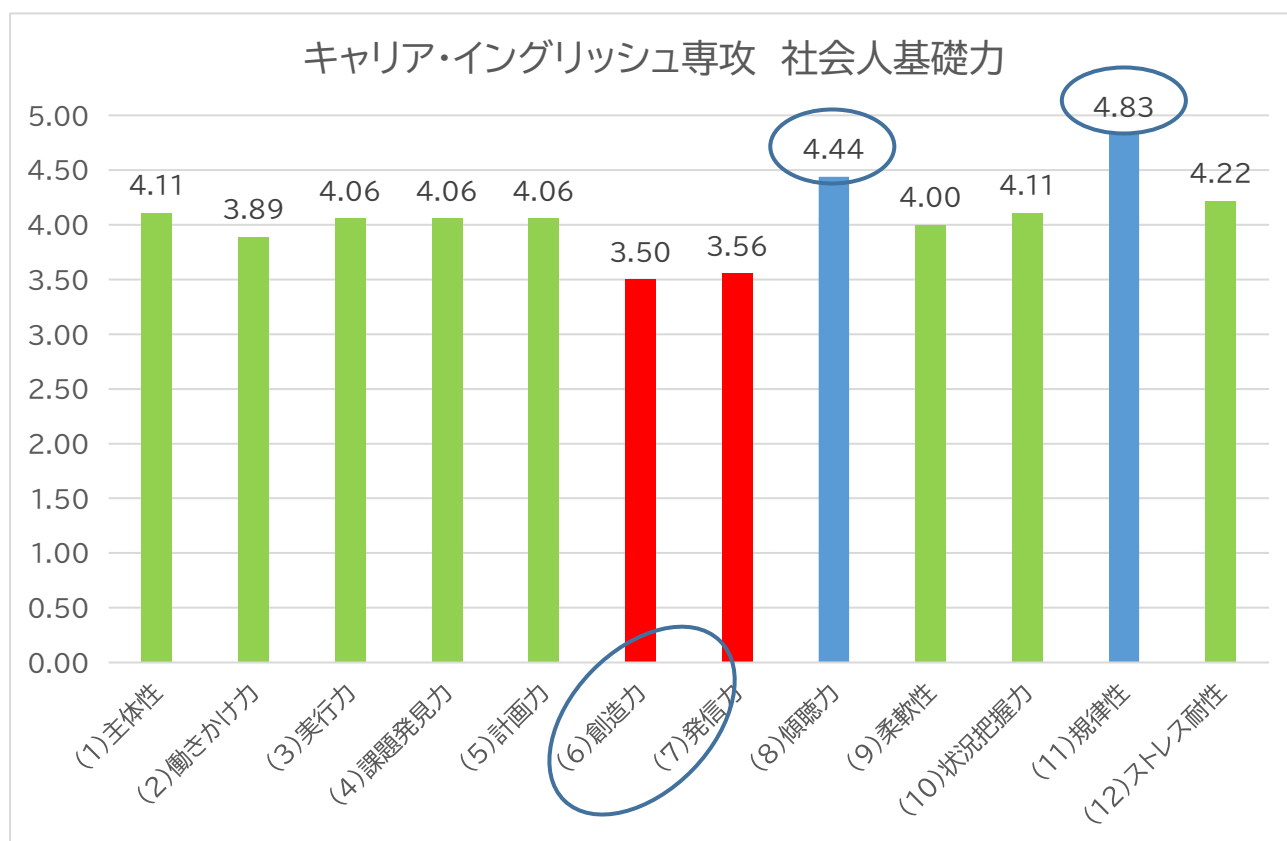
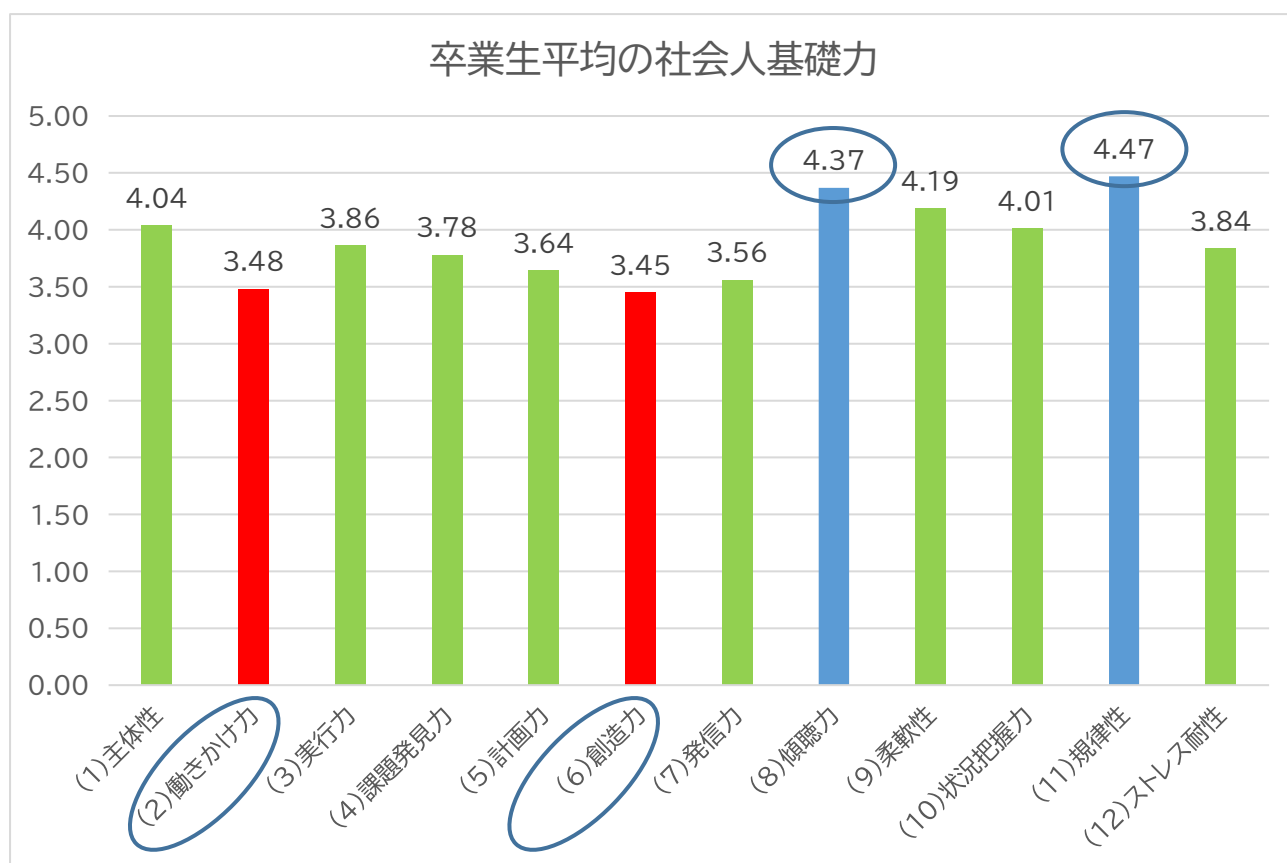
(1)	学校教育についての理解	教職の意義・理念・法規・教育史・社会的役割・地域の特色に関する理解
(2)	子どもについての理解	教育心理・教育原理・発達論・学習集団の形成・対応力に関する理解
(3)	他者との協力	他者意見の受容・保護者地域との連携協力・共同授業・役割遂行に関する理解
(4)	コミュニケーション能力	子どもに対する態度・公平・受容的態度・社会人としての基本・集団理解及び指導力
(5)	教科・教育課程に関する基礎知識・技能	各教科に関する基礎理論・知識・実践力・情報機器の活用・学習指導要領の理解
(6)	教育実践	教材分析能力・授業創造力・教材開発力・授業展開力・学級経営力に関する理解

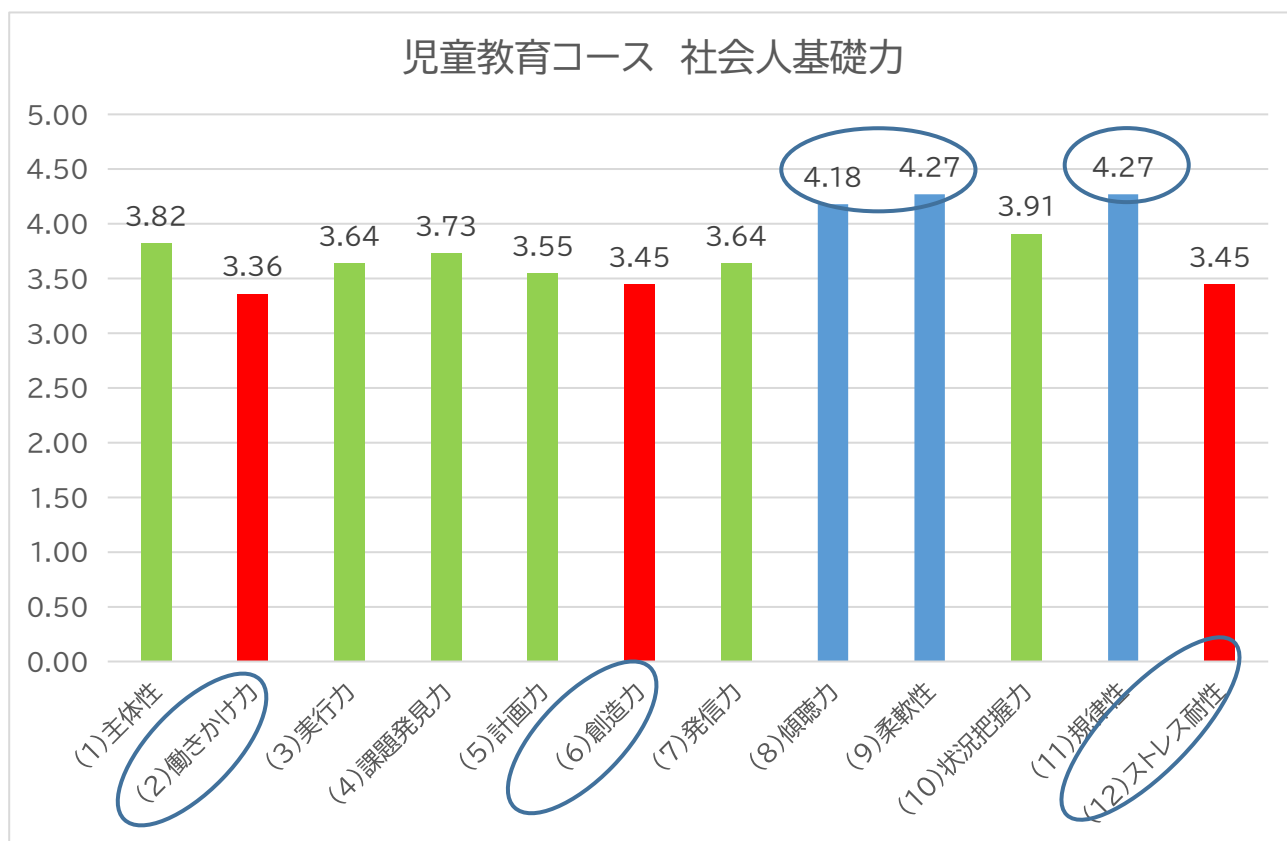
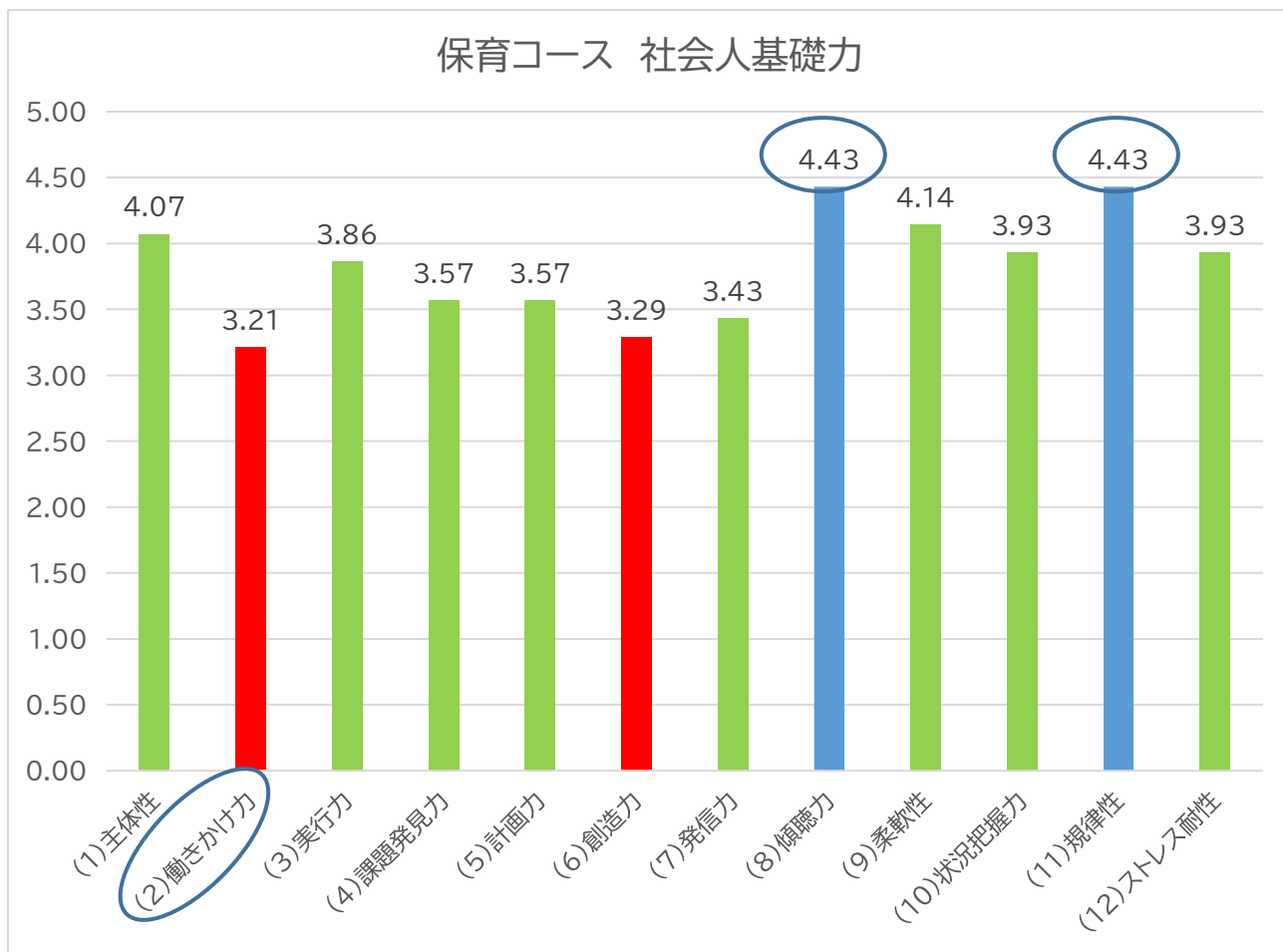


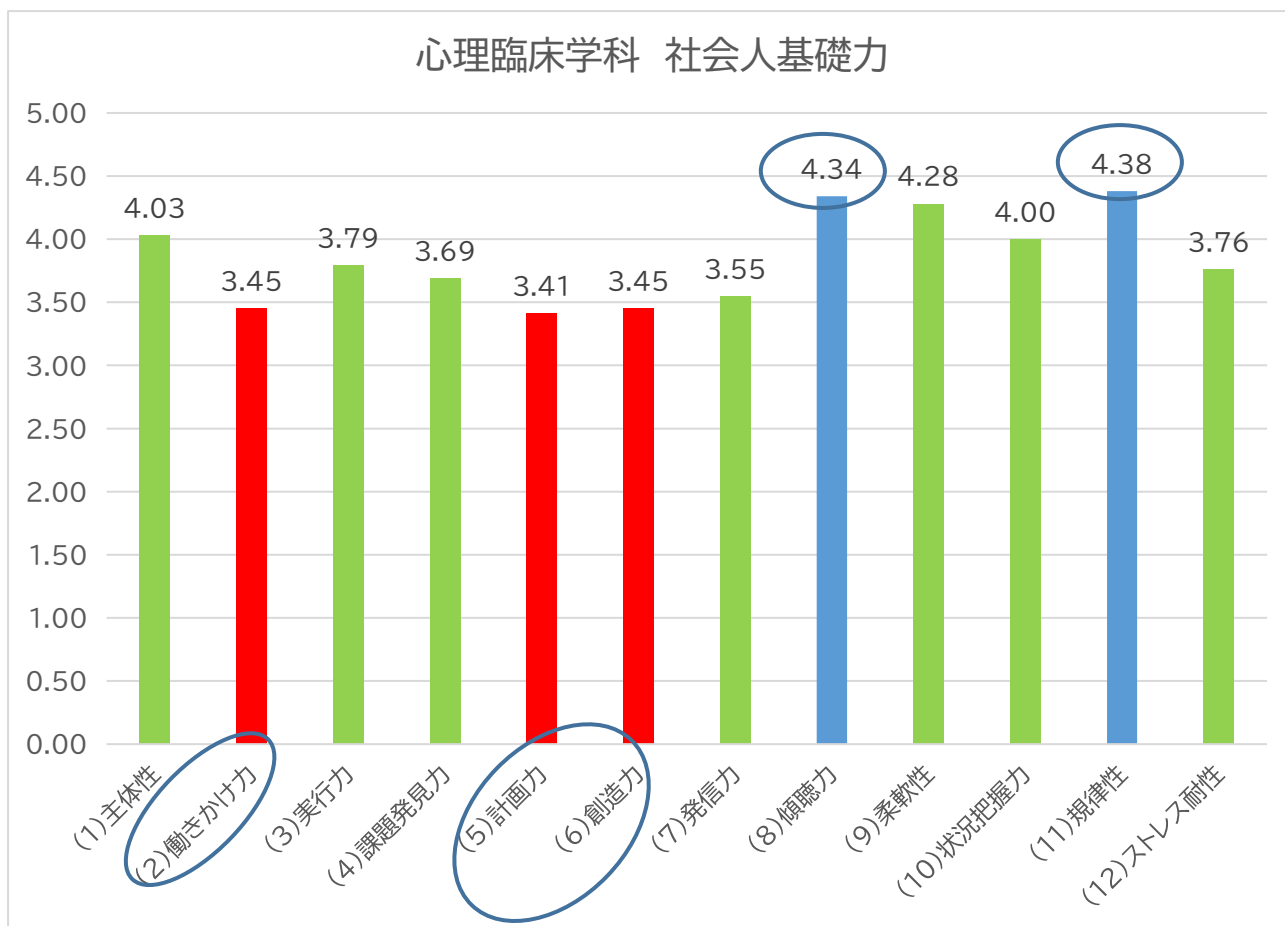
心理臨床学科卒業生への質問(回答 29 名)

(1)	心理・教育・福祉についての理解	社会、思想・哲学、人権、ジェンダー、生命・医学などの幅広い視点で心理・教育・福祉を理解している
(2)	対象者についての理解	人間の発達的特徴や家族関係、障害児・者の特性、心の問題や精神疾患の特徴を理解している
(3)	心理臨床・特別支援教育・精神保健福祉に関する専門知識	心理職、特別支援学校、精神保健福祉士といった職種及び研究に必要な理論・思想が身に付いている
(4)	心理臨床・特別支援教育・精神保健福祉に関する専門スキル	心理職、特別支援学校、精神保健福祉士のいずれかに必要な査定・教育・援助・研究の技法や情報処理技能が身に付いている
(5)	他者との協力・連携	適切な感情・態度で他者やその立場を受容し、適切なマナーやルールのもとで他者と協力・協働できる
(6)	心理・教育・福祉的実践力と自己理解	自己および社会・現場を理解し、心理職、特別支援学校、精神保健福祉士のいずれかに関わる知識・スキルを活かした実践ができる

Q4-1 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか

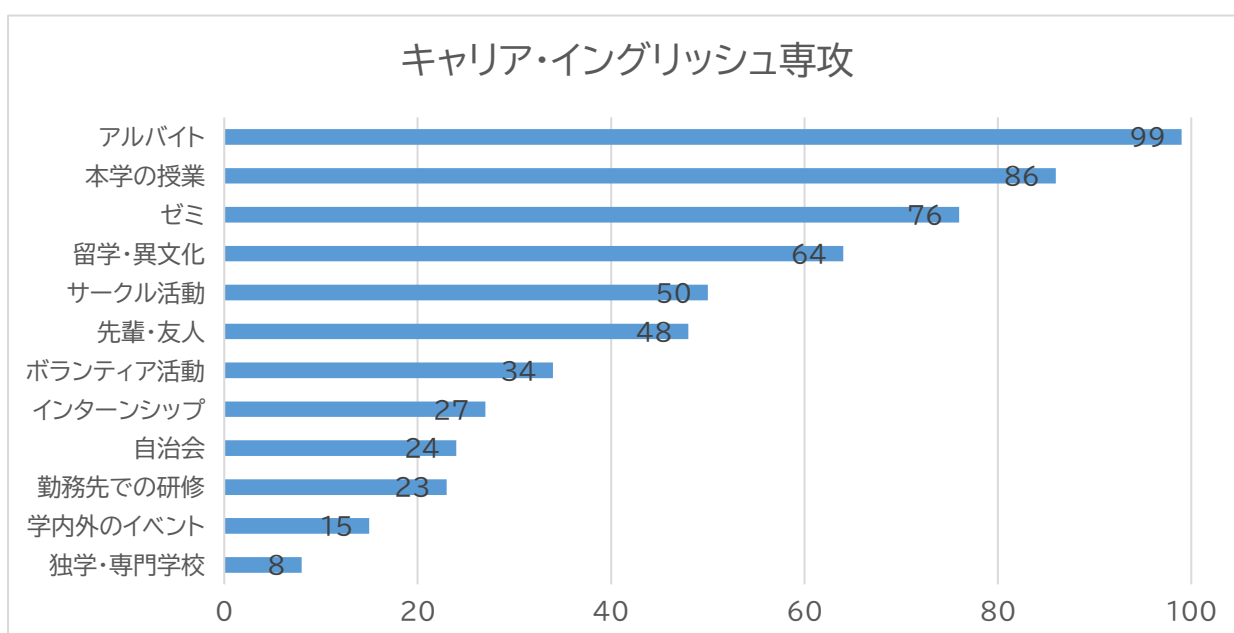


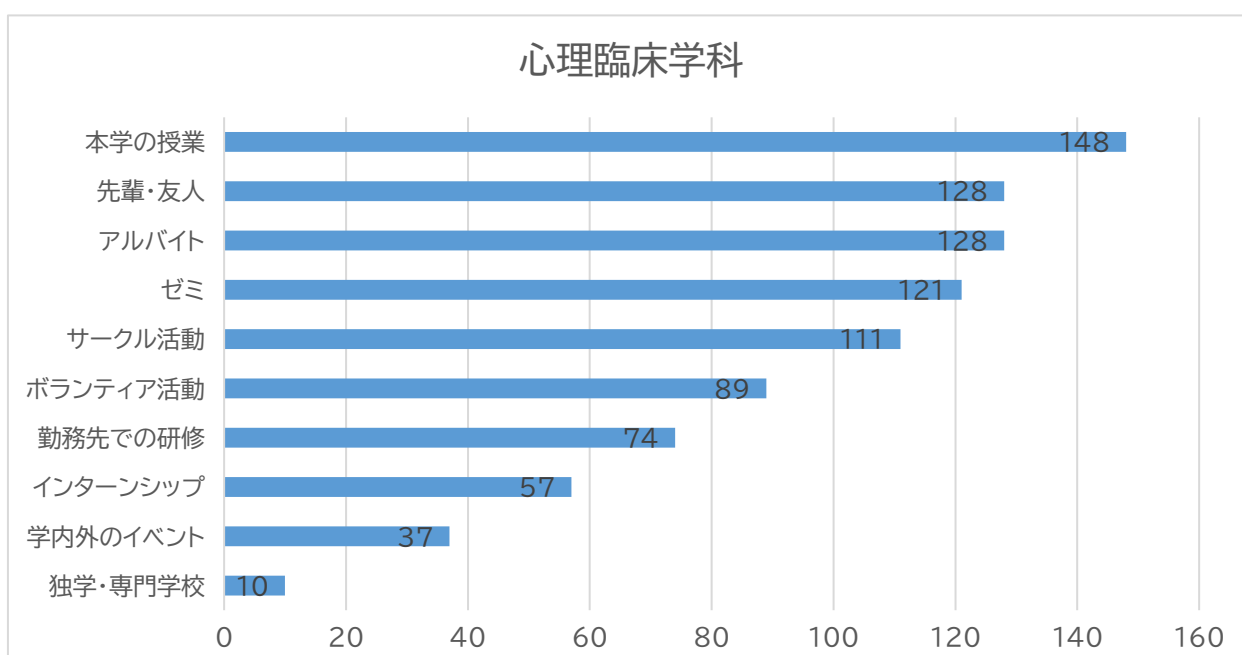
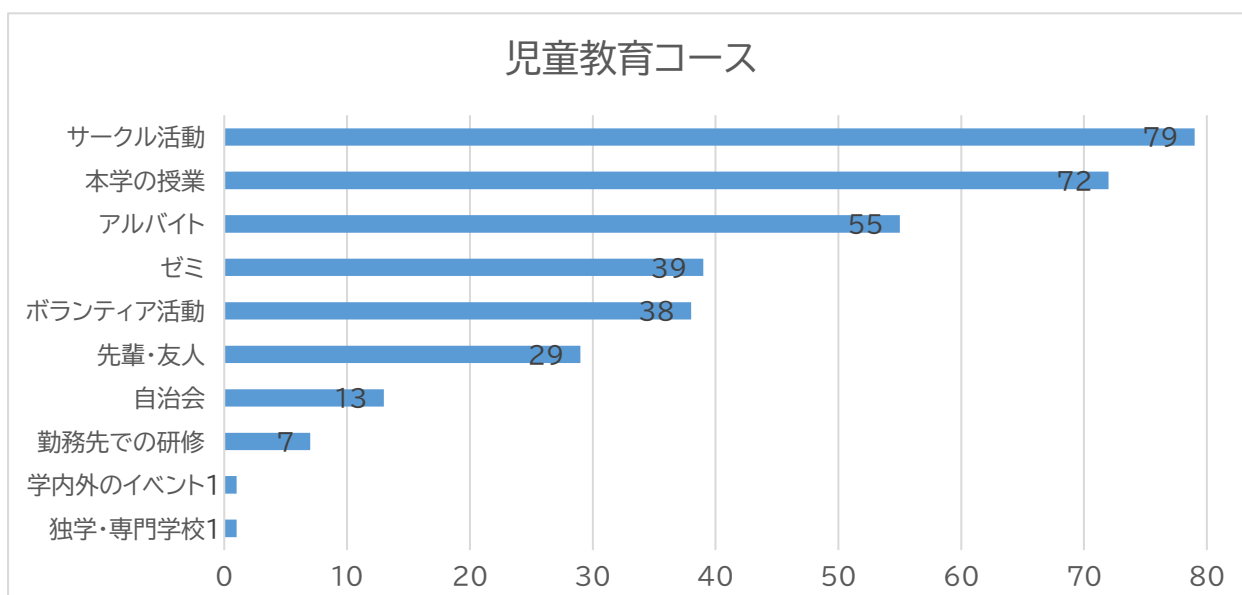
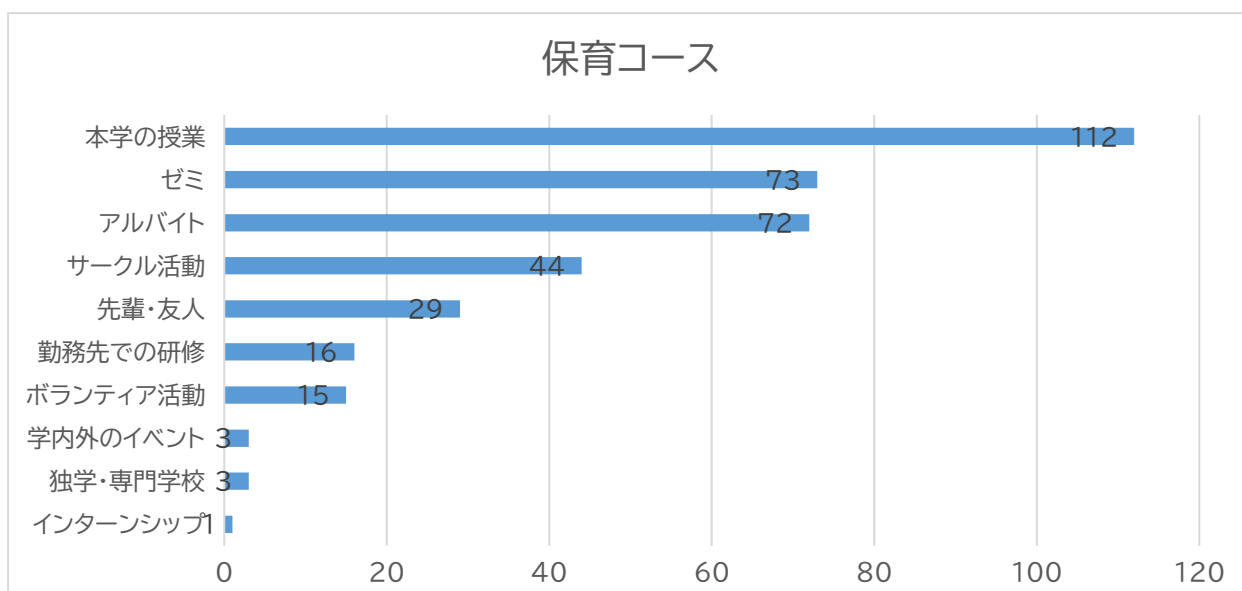




Q4-2 社会人基礎力を身に付けるのに何が役に立ったのか

- 1 本学の授業 2 ゼミ 3 インターンシップ 4 留学・異文化 5 ボランティア活動
 6 サークル活動 7 アルバイト 8 先輩・友人 9 自治会 10 独学・専門学校
 11 学内外のイベント 12 勤務先での研修 13 その他





Q4-3 実社会で必要と思われる社会人基礎力を3つ書いてください

順位	キャリア	保育	児童	心理
1	(1) 主体性	(1) 主体性	(1) 主体性 (5) 柔軟性	(12) ストレス耐性
2	(3) 実行力	(3) 実行力 (8) 計画力	(5) 傾聴力 (12) ストレス耐性	(1) 主体性
3	(7) 傾聴力	(12) ストレス耐性	(3) 実行力	(3) 実行力 (9) 柔軟性

Q4-4 社会人基礎力以外で、大学時代に身に付けておけば良かったことや、在学生に身に付けて欲しい能力や資質をあげてください

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・コミュニケーション能力、自立して生活する力
- ・資格とか勉強したら良かったなと思ってます。
- ・様々な契約に関する知識
- ・色々な人がいるということ。違いをわかり許す心

保育コース

- ・コミュニケーション能力
- ・色々なものを見て感性を磨くこと
- ・電話対応、正しい敬語の使い方

児童教育コース

- ・よりよい人間関係
- ・適切な距離感を保つ能力

心理臨床学科

- ・情報処理能力、文書処理能力(素早くさばく力)
- ・社会人としてのコミュニケーション力
- ・考える力、答えを自分で導く力
- ・言葉遣い
- ・身だしなみ

Q5 仕事をする上での悩み、課題やそれを誰に相談していますか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・同僚への不満。やめ時はいつか。友達
- ・転職をしたい。誰にも相談していない
- ・課題: 教わったことを 100%そのまま受け取って行動するのではなく、自分で考え状況に合わせてより良い行動になるよう変えていくこと。相談: 同期
- ・仕事効率。職場の人に相談している
- ・相談できる人はいない

保育コース

- ・友人に相談している。
- ・保育方法など、同期と相談している。
- ・職場の先輩方。同期。家族。
- ・ストレスを感じたり、一人暮らしで誰かと話をしたい時は、大学の友達や家族に電話している。
- ・家族や友人に相談する。
- ・新人の方とクラスの担任になり、相手をサポートしたり指導出来たりしているか不安。相談員の先生がいらっしゃるなのでその方に相談している。
- ・大学時代の同職の友達
- ・悩みや愚痴は沢山あります。親や職場の先輩、友達に話したりしています。

児童教育コース

- ・悩みは仕事量の多さです。家族、友人、同僚の先生に相談しています。
- ・大きな悩み課題は特にない。歳の近い先輩やこれまでの友達と話す。
- ・分からないことが分からないこと。職場の同僚
- ・授業への取り組み。上司や同僚
- ・学級経営・生徒指導。初任者指導だった先生
- ・教員を続けるべきか悩んでいる。

心理臨床学科

- ・課題:自分の考えを話すこと、店長、上司、管理職の先生や、先輩
- ・職場の同僚、両親、友人へ相談することもある。ほとんどは自分のなかで昇華している。
- ・仕事量の多さ。先輩や同期に相談しています。
- ・精神的ストレス、友人、家族
- ・仕事の技能面などについて課題がある。管理職などに相談している。
- ・医師や家族、他部署などの板挟みになっていること。上司や自分の家族に相談する。
- ・限られた時間の中で、多岐に渡る業務をこなさなければならないこと。様々な考え方がある中で、折り合いをつけて自分で方向性を決めていかなければならないこと。信頼のおける周りの先生方に相談しています。

Q6 大学時代に有意義だったと思う授業はありましたか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・所属していた砂川ゼミでの授業は、私の好きなことを自由に学ぶことができました。実際、実生活や職場においてそこでの学びを活かすことはほとんど無いのですが、時間のある学生時代に自分の興味のある分野を学べたことで、物事に対する視野が広がりました。
- ・食育論。社会人になって1人暮らしで役立つ知識が多くあった為。
- ・ゼミ。雰囲気良かったことと、自分の好きな事についてとことん調べることができたから。
- ・友達や先輩と過ごせる1つ1つの授業や活動が今思うと有意義な時間だったと思います。
- ・政治関係の授業。

保育コース

- ・保育で使える教材を作る授業。実際に今でも仕事で使っているため。
- ・西先生の教育心理学。周りに褒めてもらうことで心が満たされた、ダッチアダムの映画が心に響いた。
- ・就職してすぐから子供の前に立つことになるので人前にたって話す経験を沢山してた方がいい。

児童教育コース

- ・特別支援教育。小学校学級経営や指導案の書き方指導。直接現在関わる内容だから。
- ・教職関係の授業。現在の職業に生かされているから

心理臨床学科

- ・教育心理学、ジェンダー学、特別支援系の授業全般
- ・認知行動療法、基礎心理学、認知行動療法、心理系
- ・発達心理学。教職で働いていて、知能結果等を見たりする機会が多く、授業で触れていたから会話がスムーズにできることが多いから。
- ・糟谷先生の社会心理学的な授業は、日常社会においてかなり役に立ちました。
- ・社会心理学、教育心理学、特別支援に関する授業、秘書学、情報基礎、情報活用
小学校教諭で特に役に立ったと感じています。様々な視点で相手のことを考えることができます。ITC 化が進んで、情報の力が大切だと感じています。秘書学のおかげで上司への対応等がスムーズになったと感じています。
- ・公的扶助論などでの専門的な職種でなければ、出会うことのない人たちとの関わりについての内容。社会へと見聞が広がる大学なら学びだと感じた。
- ・精神保健福祉援助演習指導。実際の現場を知ることができるから。
- ・様々なボランティア体験活動は自主性もあり今思えば大変有意義だった。哲学、教育心理学、統計学、基礎心理、ボランティア体験学修、キリスト教学、精神保健学・・・受講した講義ほぼすべて。
- ・数々の模擬授業です。現場に入ると学生の頃の模擬授業とは全く違いますが、個人や仲間で苦勞して考えたり、讚え合うことは大きな経験でした。
- ・教職の模擬授業や指導案作り。心理検査の授業などが、教育現場で活かすことができている。
- ・PSW の授業。仕事に直結しているから。
- ・リフレーミングの授業。授業や生徒との面談の際によく使用するから

Q7 本学全般にわたってのご意見はありませんか

キャリア・イングリッシュ専攻

- ・4年間大変お世話になりました。KLC 奨学制度について、在学中から考えていたことがあるので、この機会に書かせていただきます。奨学生の選考基準ですが、実際に4年間選考を受け続けて、授業での努力や課外活動、礼拝の出席率など、個人の努力が純粋に評価されて奨学生に選ばれるわけではないのと感じました。家庭の収入など、個人の努力の他にも選考の対象となる部分があることは理解していますが、実際に選ばれた同級生は授業中よく寝ていたり、授業への参加態度が奨学生に値するほど意欲的ではなかったりしました。正直、奨学生に選ばれるために頑張っていた努力が評価されず、悔しい気持ちが強くありました。代わりに選ばれた同級生の様子を見ると、尚更歯痒さは強くなりました。そこで、「なにが選考にどのくらい重要視されるのか」というところまできちんと説明があれば、自分が選考に落ちた結果にもっと納得できたと思います。もし、選考において、家庭の収入など学生の努力ではどうにもならないものが大きな割合を占めているのであれば、事前にしっかりその説明をしていただきたかったです。KLC 奨学生は努力をした人が取れるものだと思っていたのですが、実際自分が受けた時は違ったなと感じています。
- ・講習会や外部の先生の授業は楽しかった。

保育コース

- ・社会人になって大学の生活を振り返ると、時間もたくさんあって、とても優しかったと感じる。授業の提出物(レポート、創作物等)を褒めてもらうことも多く、自己肯定につながったけれど、酷評やより良いものになるための厳しい意見ももっと必要だったのではないかと、社会人経験を通して思った。学びを深められるかは自分の気持ち次第だが、そういった自己管理能力を身につけることが重要だったのではないかと考えた。
- ・もっと自分で調べてプレゼンをする授業があってもいいと思った

児童教育コース

- ・先生達と距離感が近く、たくさんお話しして元気をもらっていました。
- ・ボランティア等の体験やパソコンテイクの経験がとても今使われています。特に、情報系(ICT)と外国語はこれからが勝負となってくるので、慣れる機会があるのはかなり大きいなと感じます。

心理臨床学科

- ・文化祭などの規模が小さい
- ・もっと真剣に学習しておけばと思っています。
- ・在学中はお世話になりました。少人数だからこそ一人ひとりを見てくれる教育にあたたかさを感じました。卒業してからも各々が受けたあたたかさを社会で他の誰かに与えられるようなルーテルの教育を続けてください。
- ・大変な状況の中試行錯誤されていることと思います。いつも尽力くださりありがとうございます。大学での人の出会いは尊いものでした。素敵な後輩達に負けないように私も教員として頑張っていきます。
- ・学級経営などについてもっと学びたかった

*卒業生アンケートに対する各学科、専攻からの所感

キャリア・イングリッシュ専攻

CE 専攻の学生は「情報活用能力」が一番低く出ています。これは前回の調査と同様で、情報活用能力を高める科目の充実が必要かもしれません。その一方で、「国際社会についての知識」「多様性の理解」といった項目は高く、専攻での学びが成果として表れています。しかしながら、「実社会で必要と思われる社会人基礎力」で挙げた「主体性」「実行力」「傾聴力」の三つの内、「主体性」「実行力」については身に着けるうえで最も役に立ったのがアルバイトという結果になっています。社会性や柔軟性などアルバイトから学ぶことも多くありますが、専攻での学びについて再考すべきところかもしれません。また、「創造力」と「発信力」についてやや欠けるという結果が出ていますが、それでも、キャリア・イングリッシュ専攻での学びが役に立っているという回答が多いということは注目に値します。これらの力をさらに伸ばせるような、カリキュラムや授業内容を考えていかねばならないと思います。

保育コース

卒業生が、高い意欲と意識を持って働いていることをうれしく思います。特に、授業の学びが活かされ、長く健康に働ける地盤が整った状態で就職していることがアンケートから裏付けられたと分析しました。一方で「大学で学びたかった内容」に、手遊びや制作など「見える技術」が具体的に挙げられていることに保育界の課題と保育者養成校としての在り方を考えました。つまり、現代の保育では、子どもの非認知能力の理解、保育における倫理観や権利など「見えにくいが大切な学びを重要視しています。もしも、現場でそれらが軽視され、使える技術や礼儀正しさを学ぶことを強く期待されているのであれば、卒業後の研修会などを通して、改めて保育とは何かを学ぶ時間が、実践を豊かにしてくれると考えます。学生時代に「自分が大切にされる経験」は、保育現場において「子どもを大切にできる保育者」に直結します。保育コース一丸となり、学生ひとりひとりを大切に、学生の卒業後を見据えた実践教育を今後も実施したいと思います。

児童教育コース

全般的に高評価項目に関しては4年間の実践的なカリキュラムを通して学びを深めてきたことが活かされていることが伺われますが、社会人基礎力を現在どの程度身に付けているかに関しては、他専攻コースと同様に「働きかけ力(他人に働きかけ巻き込む力)」や「創造力(新しい価値を生み出す力)」が低く、特に児童教育コースにおいては昨年同様に「ストレス耐性」が低評価項目であることが気になります。コロナ禍で様々な対応が次々と求められる小学校教育現場においては教師自身のストレス緩和が一層課題となることが予想されます。今後も在籍時にストレス・マネジメント教育やセルフ・ケアに関する講義等も実施し、レジリエンスを高める方法を継続して注力する必要があるとあらためて思いました。

心理臨床学科

卒業生の半数の回答があり、前回より実情が反映された内容になりました。全体では、在学時の学習成果が身につき活かされているものとして「共生力」が最も高い評価を得ました。これは、社会の動向に関心を持ち、異なる文化や他者を理解し、他者とともに協働する力で心理臨床学科の学位授与方針でもあります。この力を元に活躍の場が広がっていくのではないかと期待します。心理臨床学科では社会人基礎力として「傾聴力」と「規律性」が高い評価を得ました。講義やゼミ、先輩や友人との交流、アルバイトの中から培われたものであり、大学生活全体が学生の成長につながったといえるでしょう。低い評価の「はたらきかけ力」「計画力」「創造力」は新人として不足を感じたからこそではないかと思えます。専門技術も含め、これから現場で実践と研鑽を重ね伸びていく部分でしょう。「ストレス耐性」のニーズも含め、この結果を今後の教育に反映する所存です。